

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい暮らしが継続できる様4つの理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念をもとに施設ごとの理念を作成しミーティング・定例会等の会議の場で理念に沿った実践がなされているか定期的に評価して日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的に地域の方を招いた運営推進会議や家族会を設け、理念を説明し理解してもらえる様取り組んでいる。また、年4回広報誌を発行し、日々の取り組みや日常の様子を伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所への散歩を行い近所の方へ声を掛け、コミュニケーションを図るようにしている。また、事業所へのイベントの参加の声掛けも行っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや行事に利用者と参加したり、事業所のイベントに地域の人々に声掛けを行い参加して頂くことで、交流を図る機会を設けている。	○ 自治会には加入しておらず地域活動などを通じての地域交流は課題があるが、様々な交流の機会を大切にながら、事業所の取り組み等についての理解を深めつつ交流を深めて行きたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を行い地域の方々と地域資源の活用について話し合ったり、地域に出向いて認知症サポーター養成講座を開催しサポーター養成に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の必要性を、全職員で周知した上で取り組んでいる。受けた評価については、部門会議で改善策を考案し日々の業務に活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みやサービス内容を報告し、地域の民生委員や自治会長、消防団等と意見交換をしている。また、その内容を皆で共有しその後の業務やケアに活かせる様取り組んでいる。	○	スタッフ全員が運営推進会議の意義を理解して活用出来る様に取り組む必要がある。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が月に1度来所し、行事への参加などでも交流を図っている。又サポーター養成講座を通して担当者と連携を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	会議や内部研修会にて理解に努めている。必要な方がいれば、活用していきたい。	○	制度の理解については、今後全スタッフが熟知し必要時には活用出来る様研修や勉強会を行って行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会に参加し虐待についての知識を深めつつ防止に努めている。	○	研修会等の参加は少ない。研修会等での理解を深めつつ今後も見過ごされる事が無い様に十分に配慮して行きたい。今後、内部研修を予定している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明を行い利用者や家族が十分理解頂いた上で、契約・解約を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が月1回来所し入居者とコミュニケーションを図りながら要望・意見をなどを聞いている。介護相談員活動報告書は全員確認運営に反映している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	必ず面会時には利用者に関する事を報告している。必要時には、電話や文書にて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接話をする事で、意見を聞く場を設けている。上げられた意見については法人で活用しているメモにとりあげ、管理者を含めて解決・対応について検討できるシステムを作っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別で、定期的に面談を行い、要望や提案を聞く機会を設けている。施設長やリーダーは法人全体の会議にも月二回参加し意見交換を行い運営者と連携を計っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	定期的に部門または介護合同部門会議、各部門の責任者会議を行い、他部門等とも協力し調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全員が顔なじみになれる取り組みとして、行事や職員ローテーションを行っている。合同部門会議で入居者の情報交換を行い共有している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成についてはスタッフの経験年数に合わせ、介護職員指導確認表や教育訓練マップにて行っている。研修については、勤務調整をして参加しやすい様配慮し積極的に参加出来るよう配慮している。	○ 勤務3～5年、5年以上のスタッフのそれぞれキャリアに応じた教育訓練の実施と評価を行えるよう、プログラムの作成中である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入し研修に参加したり、交流を図ったりして意見交換の場として役立てている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	慰労会を実施し、ストレスを発散出来る様にしていると共に、職員間のコミュニケーションを深める場としても活用している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上期・下期に分け個人の目標の設定・評価を行っている。定期的に各自の意識確認・研修参加等をチェックして実績の把握等に努めている。	○ 今後「人事考課制度」を取り入れ、定期的な面談も行い個々の目標設定・評価など、具体的に実施しながら常にやりがいを持って仕事ができるようサポートしていく。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に本人との面談を行い本人からの聞き取り等は行っている。センター方式シート等を活用し情報収集を行い本人のニーズの把握と要望に柔軟に応えられる様努めている。「なぜメモの活用」により、日々の気付きを大切にスタッフ全員で情報の共有を行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に家族との面談を行い相談を受けるようにしている。センター方式シート等を活用し情報収集を行い本人のニーズの把握と要望に柔軟に応えられる様努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、他のサービスも必要であると判断した場合は随時応じられるよう話し合い等を行っている。	○	当法人のケアマネージャーやケースワーカーとも連携しながら 相談に応じている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人にも来所して頂いて、場の雰囲気など感じて頂ける様にしている。本人の状態に応じ本人が他者とコミュニケーションを図れたり、簡単な作業から馴染んで頂ける様な環境作りに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊厳を持って「共に生活している」ことを理念にも掲げて意識し、調理の場面等では、入居者の昔ながらの知識を教わる事が多い。その他行事には一緒に参加し、職員・入居者共に同じ時間を過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会などを通して、入居者の情報交換を行いながら、共に本人を支えていく関係作りに努めている。	○	定期的な家族会の開催も、方法や内容を考えて参加しやすい雰囲気を作り、スタッフと家族だけでなく家族同志の交流も出来るよう工夫していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族との関係性事前に情報収集し、これまで築いて来られた関係の理解に努めると共に、これからの関係を更に良いものにしていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらの友人や近所の方の面会等は家族に了承を得ながら受入れを行っている。馴染みのある家具・食器等を使って頂く事で、これまでの暮らしを大切にできる支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事や家事等の作業の場面では、利用者の性格やそれぞれの相性を見極め、互いに関わりが上手くいく様、時には間に入って支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状を出したり、定期的に行っている行事や食事会への招待を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の要望・意見などについて耳を傾けケアプランの活用や、気付きメモ(なぜメモ)等活用して把握と達成に努めている。困難な場合は昔の暮らしぶりや家族の意見等も参考にニーズの発見に努めている。	○	利用者のニーズ把握は「なぜメモ」など活用し努めているが、アセスメント用紙なども活用しプランの充実を図っていく必要がある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの過去の暮らしぶり等の情報を基にしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。入居前に利用していたサービス提供者と連携して情報を頂いたりして把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の様子やバイタルチェックは専用の用紙に毎日記録し、日々の状態把握を行っている。利用者のその時の状態によって、それぞれの過ごし方が送れる様に支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、他職種の意見を取り入れ、また本人・家族の希望も含めながら、それぞれの意見・意向を反映させたプラン作りをしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な評価・モニタリングを行っている。状態変化が見られる場合には、その都度モニタリングを行い、必要性がある時には医療機関とも話し合い、現状に即したケアプランを作成している。	○	今後も現状に即した介護計画作成になっているか介護計画の変化についてスタッフの意識づけを行いながら、介護計画に沿ったケアの提供が出来る様努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人で活用している“なぜメモ”や日々の記録を活用し、利用者のケアに関する気づきなどをくみ取り会議の場で検討し介護の実践に役立っている。	○	利用者の二ードを把握する為の一つのツールとして今後も「なぜメモ」の活用の充実を図って行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリや介護予防教室・医療的ケア等、他部門と連携を図りながら総合的なケアを提供している。また行事などについては法人内の他事業所と協力し互いの機能を活かして行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議や非難訓練等に参加して頂き、指導を受けたり意見交換などを行っている。	○	今後、運営推進会議の役員メンバーとして、民生委員や消防関係の方に就任していただき継続した関係を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問診療(歯科・眼科・神経内科等)や理美容などのサービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の所、これについての連携はないが必要に応じて行っていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	岡田整形外科Drの指示のもと病院の受診について検討し家族にも意向確認を行いながら必要に応じた病院の受診を行っている。かかりつけ医との関係についても柔軟に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>利用者の状況をよく知ってその上でアドバイスが出来る様看護職員の勤務配置を行っている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけや対応には特に注意しプライバシーの保護に努めている。記録等の個人情報については外部に持ち出す事のないよう取扱いに注意している。	○	十分に注意しながらも日々の声かけにおいて配慮にかかる声かけを行っている事がある。スタッフの接遇マナー等の教育を行ってプライバシーの配慮に努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や出来ることを見極めて出来る限り本人の思いや希望を表現出来る様に働きかけている。全ての日常の行為について本人の意向を確認している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや希望に沿った一日が過ごせるように個別に支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に身だしなみチェックやカットの日を決めている。また、行事の際は化粧やおしゃれを楽しんで頂いている。理美容については現在の所要望は無いが希望があれば対応したい。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る切り込み・味付けのアドバイスをもらい、職員と一緒に準備と片付けを行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の表情や言葉にも注意をはらいながら本人の嗜好の把握に努めている。お酒などについても希望時には提供している。	○	制限が必要な時もあるが、利用者の楽しみは柔軟に対応出来る様支援して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄の状況に合わせて個別に対応している。	○	本人の要望を見極めて今後も十分に検討を重ねながら支援して行きたい。気持ちよく排泄できる事に対する支援の気付きが増えるよう意識をもって取り組んで行きたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の状態や希望に合わせた入浴の支援を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調などを把握し、常に安心して気持ちの良い休息が出来る様、個別に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式等から本人の趣味や、能力に活かせる様な家事やレクリエーション・散歩等の支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態に応じて所持して頂いている。地域の行事等に出掛ける際には、いつでも使用出来る様所持して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に一緒に行ったり、天気の良い日等、散歩に行く機会を作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	週に1度開催される座談会にて、一人一人に行きたい場所などの要望を意見して頂いている。また季節に応じた外出を計画し出掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・知人の方から、手紙や電話などがあった場合には、本人とやり取りが出来る様にしている。本人の希望時にも支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には常に笑顔で接し、季節に合った飲み物を提供し、本人と面会者が気軽に楽しく過ごせる様にしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部門会議や外部研修等で学び、身体拘束をしないケアに努めているが、今後更に身体拘束に関する知識を深めてケアに努めていきたい。	○	指定基準をスタッフ全員が理解して拘束のないケアの実践に努める為に今後も更に研修会の参加など行って努めていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に入出りできる場所への施錠は行っていない。鍵をかけることに対する弊害についてはスタッフは理解している。頻りに利用者の所在確認などをスタッフ同志で行い鍵を掛けないケアの実践に取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在確認を頻りに行いながら出来るだけ本人にも「見られている」というストレスを与えないよう取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その時の利用者の状況に合わせて注意の必要な物品(洗剤や置物)などは場所を決めて保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	部門会議や外部の研修等で知識を深めながら「～かもしれない」という予防意識を高めている。注意が必要な方に関しては個別で対策をたて事故防止に努めている。	○	月1回スタッフの事故防止に関する対応の振り返りを行い(振り返りシートを使用)意識の向上に努めている。今後も継続して利用者の安全確保に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修会に参加し、内部研修(AEDの取り扱い等)の場で実践している。急変時の対応についてはマニュアルを作成してすぐに確認できる場所に掲示している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、火災を想定した避難訓練を行い、地域の消防団にも参加してもらい、入居者が安全に避難出来る様訓練を行っている。又その他の災害についても主に消防機関と避難の仕方について検討を重ねている。	○	食料品などの備蓄や非難場所・経路は定めているが、火災以外の災害時の対応などの仕方等も今後シミュレーションして訓練を行う必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	必要に応じては契約書などの同意を得ながらリスクについて理解頂いている。その上で本人にストレスを与えないよう配慮したケアを家族を含め検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、異変があった時はすぐに病院に報告出来る様にしている。日々の訪問看護や定期的なDr往診なども行い異変の早期発見に努めている。	○	バイタルチェック表に関してはこれまで使用方法や記録の仕方等医療機関と検討を重ねてきた。入居者の状態によって注意する内容は変わるので今後も医療機関と連携して取り組んでいきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬の情報を一覧表として作成し、活用しながら服薬介助を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤だけに頼らず食事や水分摂取を工夫し適度に運動を行いながら便秘予防に努めている。必要に応じて服薬にてコントロールしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは行っている。また、状態に応じて訪問歯科にてクリーニングを行っている。特に支援が必要な方に関してはケアチェック表を用いて清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分摂取は一人一人に合わせて方法を考え行っている。水分・食事摂取が低下した場合は、Dr.に報告し必要な医療を受けたり管理栄養士のアドバイスを受けたりしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症については手順書があり、当グループホームで発生した場合や外部で流行している時などで対応を変えるようにしている。	○	定期的な内部研修を行っている。又感染警告などの文書の回覧等行いスタッフの意識付け等行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士の指導のもと、衛生管理を行い食中毒予防に努めている。	○	定期的に隣接事業所と互いの施設の環境感染チェックを行っている。今後も管理栄養士などの指導を受けながら、衛生管理の知識をたかめ食中毒予防等に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲に花を飾り、玄関には季節の花やレイアウトの工夫を施している。	○	来設者が季節によって楽しめるレイアウトの工夫や花や建物周りの手入れ等スタッフ全員で意識を持って取り組み、常に心地良さを感じて頂けるような環境づくりをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには適度に光が入るようになっており、カーテン等で調節をしている。季節に応じてくつろげる空間を作っている。また、リビングではラジオや昔の流行った歌などを流し、落ち着ける空間を作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファをお置き、入居者同士で話をしたり又は一人でもくつろげる様環境作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や、好んでいる家具を使用し、馴染みの空間ができるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節に応じて温度や湿度の調整をし、快適に過ごしていただける様工夫している。また入居者や面会者に不快な思いをさせないよう、換気は、こまめに行う様にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はほとんど無く、ホーム内には要所に手すりを設置している。 トイレや浴室は車椅子でも利用しやすい広さを確保している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	昔の職業や家事などを思い出していただける様、本人の得意であった事を活かしながら支援している。。	○	やりがいを持って生活できる様その日の状況にも注意しながら支援している。今後も出来る力を最大限に引き出せる様スタッフは意識を持って支援して行きたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場や中庭を使って夏祭りをしたり、天気の良い日は中庭で弁当やおやつを食べながら楽しんでいただける様取り組んでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・認知症サポーター要請の講座を数回開催してきた。認知症介護の実践者としてキャラバンメイトメンバーは積極的に認知症サポーター養成講座行い一人でも多く認知症の方の理解者を増やして行きたい。
- ・グループホーム全国大会などの事例に基づく研究発表など行っている。日々の実践を大切にして今後も全スタッフで研修など参加しスキルアップして行きたい。
- ・入居者の状態変化には個人差がありケアの内容は大きく異なる。それぞれにあったケアができるよう努力しているが、生活の状況は違う中でも皆で寄添って過ごす時間や家庭的な雰囲気作りは今後も大切にしていきたい。
- ・法人全体で利用している「なぜメモ」活用して日々の気付きや利用者・家族のニーズに添えていけるよう取り組んでいる。
- ・法人全体で利用している「ポジメモ」活用してスタッフのモチベーションUPとやる気を引き出している。